

KCJS30 2018 年秋学期 日本語 E クラス

担任 (coordinating instructor) : 中村伊都子 なかむら い っ こ

オフィス／電話番号／メール : F203 (扶桑館) ふそう かん / 075-251-4996 / in2008@columbia.edu

オフィスアワー : 必要に応じて (事前に連絡すること)

副担任 (Sub-instructor) : 中田かおり なかた kn2345@columbia.edu

授業時間 : 月～金 9:30-10:30 & 10:40-11:30

教室 : F213

<KCJS 全体の目標>

The objective of KCJS's Japanese Program is to enhance the student's communicative competence and to enable professional and personal interaction with members of Japanese society in ways that are culturally readily acceptable. In particular, a KCJS student will come to:

1. Understand the intentions of others when Japanese is spoken;
2. Understand the intentions of others when written materials of various genres and media are presented;
3. Control the use of Japanese expressions, both spoken and written, in order to fit the socio-cultural settings and purposes of communication;
4. Expand the modes of communication used to include such genres as formal presentations, negotiations, projects, the organization of events, and their follow-up.

<このコースでの今学期の目標>

- 日本文化の理解を深め、日本語の運用能力を向上させる
 - ① 詳細さ (詳しく説明したり、詳しく描写したりできるようになる)
 - ② 説得力のある考え (裏付けのある意見を述べ、相手に納得してもらえるようになる)
- 多文化理解を深める (日本文化、クラスメートの国の文化を学ぶことで、自国の文化にも光を当てる)

<目標達成のための発想の転換>

- 「教わる」から「学ぶ」へ、「銀行型」から「実践」へ じっせん
 - 日本語を使って何かをする、何かを学ぶ
 - 習ったことを積極的に使う
 - 常にチャレンジする (難しいと感じることをする、難しいと感じる形です) “突きあげ”
 - 五感で学ぶ (視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚) しかく ちょうかく しょうかく みかく きゅうかく
 - 観察から学ぶ
 - 予習を通し、何が分からないかを把握した上で授業に来る はあく
 - 復習し、分からなかったところが分かるようになったかどうかを確認する
- 自分をとりまく環境全てが学びの場、いつでもどこでも学習。自分をとりまく全ての人、物が「先生」
 - 人から学ぶ (聞く、質問する、真似る) まね
 - 人と学び合う (知識を共有する)
 - いつでもどこでも主体的に、積極的な姿勢で学ぶ
 - いつでもどこでも誰とでも日本語を使う
- 間違いは学びのチャンス、間違いからしか学べない
 - 常にチャレンジする (難しいと感じることをする、難しいと感じる形です) “突きあげ”
 - 間違いを恐れず、どんどん間違えよう!
 - 試行錯誤 (trial & error) しこうさくご を通して学ぶ

<目標の達成方法>

- ・ 地域参加型プロジェクト（Community Involvement Project）
- ・ インタビュープロジェクト
- ・ ホストファミリーや友達、会話パートナーへの聞き取り調査
- ・ 同志社の政策学部生との合同授業
- ・ ゲスト講師による講義
- ・ 多読
- ・ 日本語アワーの活用
- ・ 教師-生徒間の密なフィードバック
- ・ “突きあげ”（自分にチャレンジを課す）
- ・ （オプション）会話パートナー

<詳しい学習目標>

1. 日本人のために書かれた様々なジャンルのテキストを精読^{せいどく}して、クリティカルに読めるようになる。また、分からない言葉や文法があっても、文脈^{ぶんみゃく}から意味を推測^{すいそく}して理解を深められるようになる。
2. 日本人のために書かれた様々なジャンルのテキストを速読^{そくどく}（rapid reading i.e. scanning and skimming）して、必要な情報や要点を取ったりできるようになる。
3. 多読（extensive reading）を通して、日本語のテキストを楽しく読み、短時間に読める量を増やす。
4. 日本語でのコミュニケーションにおいて、分からないことを質問したり、自分の理解が正しいかどうか確認したり、時には推測によって補いながら、理解を深められるようになる。
5. 詳しく説明したり、描写^{びやうしや}したり、説得力のある意見を述べたりできるようになる。
6. 相手に伝わる文章を書けるようになる。
7. 映像作品や話題のニュースを理解し、それについて話したり、意見を述べたり聞いたりできるようになる。
8. 漢字熟語^{じゆくご こうせいようご}の構成要素から、熟語の意味が推測できるようになる。
9. 相手や場面にあわせ、適当な話し方ができるようになる。
10. 読み教材、聞き教材や、『Kanji in Context』から日常語彙^{ご い ちゆうしやう}、抽象語彙、漢語彙、文法・表現を増やす。
11. 独学の仕方を身につける。

<成績うちわけ>

授業 (30%)	出席・参加（準備、積極性 ^{せつきよくせい} ）	15%
	宿題	15%
小テスト・試験 (50%)	小テスト（漢字、単語）	15%
	試験 1、2、3	35%
プロジェクト (20%)	地域参加型プロジェクト（CIP）	5%
	プロジェクト・期末発表	15%

100 – 94.0 A	93.9 – 90.0 A-	89.9 – 87.0 B+	86.9 – 83.0 B
82.9 – 80.0 B-	79.9 – 77.0 C+	76.9 – 73.0 C	72.9 – 70.0 C-
69.9 – 67.0 D+	66.9 – 63.0 D	62.9 – 60.0 D-	59.9 – F

<出席・参加点の評価基準>

- ・授業1回につき10点満点

10点 ①積極的に参加している

②パフォーマンスの質がよい

- ・予習をし、何が分かって、何が分からないかを把握した上で授業に臨んでいる
- ・準備をし、自分へのチャレンジ（突き上げ）が見られる
- ・直されたことを直そうとする努力が見られる
- ・習ったことを積極的に使っている

- ・授業中の参加度と、パフォーマンスの質により、0.5点刻みで評価する
- ・遅刻の場合、その度合いに応じて、出席点・参加点が減点される。

		参加度				
		◎	○	△	×	
パフォーマンスの質	◎	10	9.5 9	8.5 8	7.5 7	
		○	9.5 9	8.5 8	7.5 7	6.5 6
	△		8.5 8	7.5 7	6.5	6
		×	7.5 7	7	6	5
	欠席		0			

- ・成績を Engradeで確認すること <https://www.engagepro.com/user/login.php?>

<小テスト>

1. ほぼ、毎日9時半から9時40分の間にクラスで行なう。遅刻をしても時間の延長なし。
2. 漢字テスト：単語テストがない日は、毎日「意味」と「読み&書き」の小テストを受ける。
『Kanji in Context』から赤字のものが出題される。
3. 漢字まとめテスト：漢字テストの3、4つ分から出題される。
4. 単語テスト：クラスで読んだ読み物などから、覚えたいものをクラスで選ぶ。

<決まりごと>

1. 遅刻と欠席

- ・欠席する時は、担任に電話かメールで必ず連絡すること。075-251-4996/in2008@columbia.edu
- ・遅刻と欠席は、授業ごとに数える。（例 1日休んだら2回欠席）
- ・1分でも遅れたら、その授業は「遅刻」の扱い。20分以上遅れたら、「欠席」となる。

2. 出席・参加点

- ・欠席の場合は、0点になる。
- ・遅刻の度合いに応じて、出席点・参加点が減点される。

3. 小テストや試験

- ・小テストは、ほぼ毎日9時半から9時40分の間にクラスで行なう。遅刻をしても時間の延長なし。^{えんちょう}
- ・休んだ日の小テストは後で受けることはできない。試験は、やむをえない事情で欠席した場合だけ、後で受けることができる。
- ・私用の旅行は、やむを得ない事情ではないので、試験は受けられない。

4. 学期末の調整

- ・欠席した当日までに連絡があった場合のみ、学期末に4回分の出席・参加点を落とす。
- ・1度も欠席しなかった場合は、出席・参加点の最も低い点数を4回分落とす。
- ・小テストの最も低い点数を2回分落とす。

5. 宿題

- ・締切（つまり、1時間目開始時）までに宿題を出す。締切を過ぎた場合は、内容は見るが、点数はなし。
- ・きちんと宿題をしていないことが明らかな場合は、「incomplete」と見なし、点数はなし。
- ・重要な点を間違えている場合は、試験前の締切日までにやり直しをする。やり直しを提出しない場合は、その宿題の点数は7割となる。
- ・宿題は、自分一人の力ですること。他の人を見たり、他の人の力を借りない。

4. その他

- ・他のアカデミックなルールに関しては、以下のページを読むこと。<http://www.college.columbia.edu/ccschonorcode>
- ・教室では食事は不可。国際交流ラウンジか外に行くこと。